

平成24年3月31日

陸前高田市議会議長 伊藤明彦様

陸前高田市議会

鵜浦昌也



### 政務調査活動概要報告書

政務調査費に関する取り扱い要綱第6条第2項の規定により、平成23年度政務調査活動報告をいたします。

#### 記

#### 1. 調査事業(研修視察)

(1) 実施日 平成23年10月24日(月)～26日(水)

(2) 場所 国会議事堂(総務副大臣室ほか)、内閣府

(3) 参加者 鵜浦昌也(新志会に同行)

#### (4) 行程

10月24日(月) 陸前高田市6:45発～一ノ関駅9:06発～東京駅11:28着～  
赤坂見付駅～ホテル

10月25日(火) 国会議事堂着～黄川田徹事務所～農林水産委員会傍聴(11時00分～11時20分)～菊地長右エ門衆議院議員と意見交換(11時25分～11時35分)～昼食～黄川田総務副大臣と意見交換(13時40分～14時25分)～畠山直哉震災写真展見学～ホテル

10月26日(水) ホテル9:00発～内閣府行政刷新会議室(09時30分～10時45分)～平野達男東日本大震災復興対策担当大臣と意見交換(11時00分～11時55分)～昼食～東京駅14:40発～一ノ関駅17時13分着～陸前高田市着

#### (5) 視察研修項目

①復旧・復興対策について

②被災者生活支援制度の申請期間延長について



- ③農林水産業の被害状況について
- ④事業仕分けの進捗状況と課題調査
- ⑤国の震災対策の進捗状況と課題調査
- ⑥復興に向けた課題解決のための意見交換

(6) 視察研修概要 (10月24日は移動日)

10月25日は黄川田徹衆議院議員事務所を訪問した後、農林水産委員会を傍聴し、菊地長右エ門衆議院議員から農林水産業の被害状況等についてお話を伺いました。早急な復旧・復興に向けた対策等を早める必要があることについて意見交換しました。

午後には黄川田徹総務副大臣から復旧・復興対策やその進捗状況等についてお話を伺いし、本市の復旧状況と復興に向けた復興の素案づくりの経過と今後のまちづくりについて課題解決のため意見交換しました。

特に被災者生活支援制度について、被災者にとって深刻な状況下の中、加算支援金(建設・購入の場合200万円等)は災害発生日から37ヶ月以内となっており、今後防災集団移転事業や区画整理事業を実施するにあたって申請期間が間に合わないことが懸念されることから、制度を研修するとともに申請期間の延長について意見交換しました。

その後、陸前高田市の被災状況や気仙川の被害状況の写真を展示していた本市出身の畠山直哉氏による写真展「ナチュラル・ストリーズ」を見学するため、東京都写真美術館を訪問。被害の甚大さを全国に発信している状況を見学しました。

10月26日には、内閣府にて、大船渡市出身の内閣府行政刷新会議事務局次長である熊谷哲氏と会談。行政刷新会議での事業仕分け進捗状況や刷新の内容について研修しました。

行政刷新会議事務局長である加藤秀樹氏の霞ヶ関文化の刷新(役所仕事の効率化)では、業務の見直しを行うことが霞ヶ関全体の改革に不可欠であることから、霞ヶ関の仕事の進め方の現状・課題・方向性を整理し、効率化・簡素化を進めたい意向であることが話されました。また、行政刷新会議は平成21年10月22日の第1回から平成23年10月20日で21回目を迎え、今後も続けていく予定となっているとのことでした。

熊谷次長からは、地域の課題解決のためであったら何でも相談にのるとの力強い言葉をいただきました。

その後、平野達男東日本大震災復興対策担当大臣と会談。国の復興対策について研修し、本市の震災対策等についても意見交換しました。防潮堤や気仙川河口部の水門整備、国営公園(防災メモリアル公園)の設置、被災者生活支援制度の申請期間の延長等についての話を聞きました。大臣からは制度の見直しをするべき点は見直していかなければならないと前向きなお話をいただきました。

今回の調査事業(研修視察)により、国は陸前高田市の復興に向け積極的な後方支援を検討していく考えにあることを確認でき、非常に意義深いものとなりました。今後の議会活動に反映していきたいと思えます。

## 2. 調査事業(研修視察)

(1) 実施日 平成24年2月20日(月)～21日(火)

(2) 場 所 大槌町役場仮庁舎・議会事務局  
宮古市田老町 たろう観光ホテル(被災施設)

(3) 参加者 鵜浦昌也(新志会に同行)

(4) 行 程

平成24年2月20日(月) 8.00 陸前高田出発～大槌町役場仮庁舎視察  
研修～山田町～久慈市～ホテル

平成24年2月21日(火) ホテル～宮古市田老町たろう観光ホテル視  
察～宮古市内～藤原埠頭～山田町大沢漁港  
～16.00 陸前高田着

(5) 視察研修項目

① 大槌町役場仮庁舎 町長室

駒木主幹より大槌町の被災概要等並びに大槌町東日本大震災津波復興計画基本計画について説明を受け意見交換。

② 碓川大槌町長・阿部町議会議長・赤碓議会事務局長・金崎市政調査会長・三浦議員と意見交換

③ 吉水誠元田老町職員(元宮古市企画課長)とたろう観光ホテル社長から、被災したたろう観光ホテル6階客室で震災当日の津波映像を紹介された後、現地で被災概要の説明を受けました。

(6) 視察研修概要

1日目、10月20日大槌町役場仮庁舎へ訪問する前に小槌の仮設住宅の現状を

視察し、大槌町役場仮庁舎を訪問。町長室で駒木主幹から

① 被災編「被災概要の説明」

② 復旧編「救出・行方不明者捜索等の状況や遭難者の状況、がれき撤去の進捗状況、応急仮設住宅の入居状況、災害義援金等の状況、役場仮庁舎について、支援の状況、産業の復興状況、町復興計画基本計画など、資料を基に説明を受けました。

いまだ大勢の行方不明者がいるのは、津波による犠牲のほか、火災による犠牲者が多かったことからとの説明を受けました。碓川町長や阿部議長らとも意見交換し、相互の復旧に協力していくことを確認しました。

2日目。10月21日は、久慈市内の被災状況を視察しながら、田老町へ向い、午前11時からたろう観光ホテルを訪問。津波襲来の映像を鑑賞したほか、破壊された防潮堤の現状について現地で説明を受けました。田老町の津波防災対策概要や浸水区域と建物被害状況等の資料をいただきながら説明を受けました。

同町の防潮堤は、総延長約2・5キロで高さが約10メートルもあった外観から「万里の長城」と言われました。今回の大津波により一部が決壊したそうですが、関係者から「堤防があったことにより避難の時間がかせげた。防災面で堤防は必要」との話を聞き、本市でも早急な防潮堤整備の必要性について認識をあらにしました。